

I R 実務担当者のための事例解説：

授業アンケートの回答率を向上させ、学生から建設的な意見を得るための工夫

－ 業務

- ・ 学部学科、部署を横断する観点でデータ分析、情報提供を行っている

－ 学生による授業評価

- ・ 実施率
 - － 国公立大で 94.3%
- ・ 学生による授業評価が全てではない（授業を評価する 1 つの方法）
- ・ とは言え、全ての授業を受けた者が評価しているという特長がある

－ 今回の報告内容（工夫の紹介）

① 回答率を向上させる

－ 背景

- ・ 各大学が求められていること
 - － 教育目標に沿って教員間で連携して科目を編成、内部質保証など
- ・ 授業評価のデータが重要
- ・ 個人識別可能なデータという観点では WEB が望ましい（個人を特定するという話ではなく、データ処理上の話）
- ・ WEB 化をすると回答率が著しく低くなるという不安

－ 行ったこと

- ・ 教員が学生個人に直接回答を促す（延長期間×2）
- ・ 未回答者リスト（教員別）、回答率（学科・学年別）を配信
- ・ FD 委員会で回答率を報告

② 学生に建設的な意見を書いてもらう

－ 背景

- ・ 形骸化、抽象的な自由記述など
- ・ 学生・教員が相互に信感し合う関係の中で授業アンケートを行いたい
- ・ そのために趣旨をうまく伝えたい

－ 行ったこと

- ・ まず教員に理解してもらい、教員から学生に伝えてもらう
- ・ [事務的な文書] を止め、[趣旨をわかりやすく伝える案内] を作る
 - － 丁寧な合意形成（学科から意見聴取、案を作成、審議・承認）
- ・ 学生へのフィードバックのシステムも改修
 - － 数値・自由記述に対して、教員が学生に向けてコメントする（教員が学内システム上で入力したものが学内に公開される）
 - － 同様に学科から意見聴取、案を作成、審議・承認（教員が入力しやすく、学生が閲覧しやすい形に改修）